

地震計調査委員

田中館愛橘
中村精男
大森房吉
長岡半太郎

明治廿五年十月

震災豫防調査會々長加藤弘之殿

(參照第五甲)

耐震家屋報告

耐震ト云ヘル意義 耐震家屋ト云ヘバトテ絶対的耐震ノ意ニ非ス殊ニ此レ目下研究中ノ一大問題ナレバ該構造ノ如キモ固ヨリ試験的ノモノニシテ將來強震若クハ劇震ニ遭逢シテ始メテ實際其適否ヲ證シ得ルモノナリ然レモ平常微震弱震ノ場合ニモ地震機ヲ据置テ普通ノ方法ニ依リ建築シタル煉瓦石造ノ家屋ト比較對照ノ試験ヲ爲サント欲ス
拋物線形ニセル理由 耐震家屋ガ水平動ノ震波ヲ受テ構造全體ニ強弱ノ差違無ク均一ノ力量(ユニフチム)ナルベキヲ目的トシテ一ノ公式ニ則リ周圍壁ヲ拋物線形ト爲シタリ
一枚盤礎トナシタル理由 盤礎ハ建物全體ノ重量ヲ負擔スルモノナレバ特ニ注意ヲ要ス而シテ其構造ノ如何ニ因リ地震ノ

際水平若クハ上下ノ波動ヲ受クルニ當テ全部不同ヲ免レス因テ之ヲ避ケンガ爲メニ一枚盤礎ヲ使用セリ
「コンクリート」ノ配合 右一枚盤礎ハ淺野セメント一分川砂三分川砂利七分ノ配合ヨリ成レルモノヲ以テ造リタリ
煉瓦石ノ品質 周圍壁ニ使用シタル煉瓦石ハ日本製瓦會社ノ製造ニ係ル所ノ一時平方ニ抗伸力平均凡三百ポンド以上有ルモノヲ以テセリ
「モルタル」ノ配合 煉瓦石積ニ使用セシ「モルタル」ハ淺野セメント一分川砂四分ノ配合ヲ以テ製造セリ其最後ノ抗伸力ハ三百ポンド以上有ルベキハ既ニ三十週間内外ニシテ二百八十磅以上ナルヲ以テ知ルベシ之ヲ要スルニ該「セメントモルタル」ヲ以テ積立タル煉瓦石壁ハ少クモ煉瓦石其物固有ノ抗伸力ト均一ナルモノト見做シテ可ナラン
不同質物體ヲ相互離絶セシメタル理由 學理上實際上不同質ノ物體ハ地震波動ヲ受テ不同ノ移動ヲ爲スモノナリ例之ハ木石ヲ混用シ或ハ石材ト煉瓦石トヲ混用シテ有レバ爲メニ異動ヲ生スルナリ異動ヲ生スルカ故ニ劇震ノ際ハ被害ノ度自然大ナルヲ覺ユルナリ因テ耐震家屋ニ木石ヲ混セズ又石材ト煉瓦石トヲ混用セス是故ニ小屋組全體ハトラスノ原則ニ依リ木材ト木材ハ牢固ニ組合セタリト雖モ煉瓦石壁トハ結合セシメス

シテ單ニ之ヲ煉瓦石壁上ニ据置キ只暴風等ノ爲メニ掀離セラレサル様一種ノ方法ヲ施シタリ

小屋組ノ如キハ未タ盡サマル所有リト雖モ一個ノ建物ヲ以テ他ノ試験ニモ利用セントセハ勢斯ノ如キヲ免レス

以上ハ耐震家屋建築ノ要領ヲ略述シタルニ止ル之レニ使用シタル材料試験成績工事仕様書及圖面ハ別ニ可及報告候也

震災豫防調査會委員

明治廿六年十月 工學博士 辰野 金 吾(印)

震災豫防調査會長理學博士菊池大麓殿

(參照第五乙)

耐震家屋報告書付添

第壹號 仕様書 壹册

當初豫定ノ仕様書ト同一物ニシテ仕工上極メテ細末ノ部分ニ模様替アリ

第貳號 材料試験成績 壹册

淺野セメント

日本製瓦會社煉瓦

屋根瓦

第三號 材料重量 壹册

屋根木材

屋根瓦

屋根亞鉛板

屋根鐵物

練砂利

煉瓦石

モルタル

漆喰

中央臺石

壁付機械臺

入口容積

本書ハ主トシテ構造全體並ニ其各部分例ヘハ練砂利土臺煉瓦壁、及ヒ木屋組、屋根等ノ各重心點位置ヲ決定スルノ目的ヲ以テ調製シタルモノナリ

第四號 圖面 四葉

木屋組圖

百分一圖及煉瓦壁圖

天窓圖
地盤填坪圖

右之通ニ御座候也